

みなと 物語



環状線は港区でつながった!!



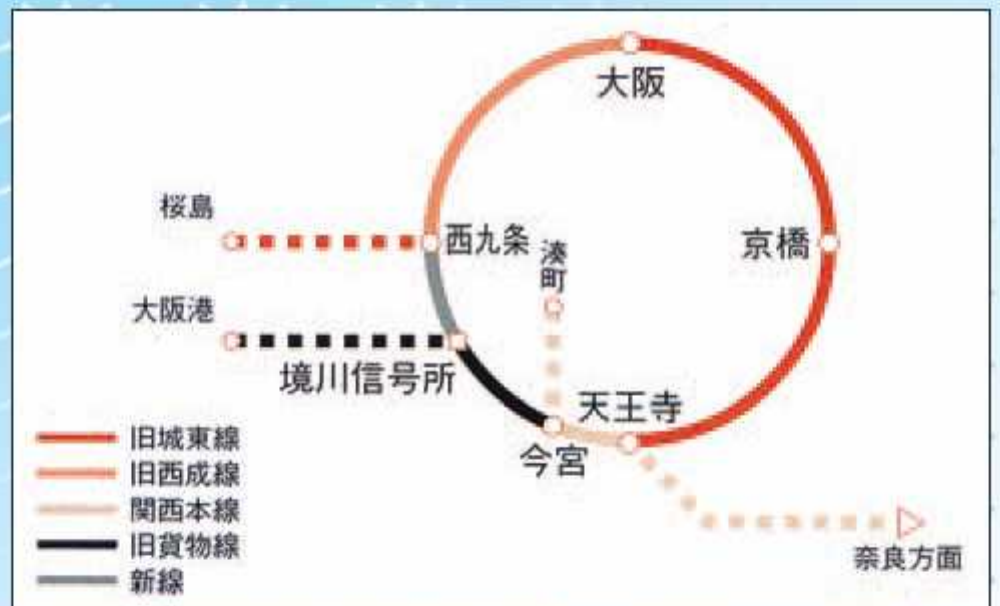
建設中の大阪環状線安治川橋梁(昭和35年)

現在大阪市内中心部を一周する大阪環状線は、戦前は西九条一天王寺間がつながっていませんでした。「大阪の発展のためには環状線が必要」という市民の要望により、昭和10(1935)年には具体的な計画まですすみましたが実現には至りませんでした。

しかし、戦後、都市交通の充実のため再び環状線の建設が求めら

れ、昭和31(1956)年に西九条一天王寺間を結ぶ環状線工事が着工されその起工式は市岡中学校で行われました。環状線工事は、西九条一天王寺間のうち、西九条一境川信号所(現在の南市岡2丁目付近)間の2.6kmに高架の新線を建設し、天王寺ー今宮間は関西本線を、今宮一境川信号所間は貨物線(臨港線)を利用する改良工事とされました。

この貨物線(臨港線)は、明治30(1897)年に着手された大阪港改修工事の工事資材の輸送と築港完成後の貨物輸送を目的に、今宮駅から大阪港に至る間に敷設(昭和3(1928)年完成)されたもので、単線で開業しましたが複線化を前提に建設されたため、環状線建設に大いに役立ちました。なお、貨物線(臨港線)は時代の流れとともに利用されなくなり、平成18(2006)年に廃止されました。



大阪環状線路線図『企画展「ぐるっと大阪40年」』より



交通科学館全景(昭和37年頃)

※写真はいずれも交通科学博物館 提供

昭和36(1961)年、わが国では数少ない環状鉄道として延長21.7kmの大阪環状線が開業しました。それによって、港区と市内各地との距離・時間が著しく短縮されました。翌年の昭和37(1962)年には、大阪環状線開通記念事業として、JR弁天町駅高架下に「交通科学館」(現在の「交通科学博物館」)が開設されました。